

心に残る文化財子ども塾 安来市立能義小学校

1 活動の概要

7月2日（火）、安来市立能義小学校の6年生のみなさんと『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

担任の先生から、安来市教育委員会と埋文職員を紹介していただいた後、さっそく安来地方の弥生時代から古墳時代の様子について勉強しました。それぞれの時代の特徴を、実際に安来地方の遺跡の写真や遺跡から出土した遺物を間近に見ながら学びました。学校の近くにも古墳があることを知り、児童のみなさんは驚いていました。

次に、古代の鏡について学習しました。現代の鏡は、姿を映すためのものですが、古代の鏡は祭りの道具として使われていたことを学びました。神原神社古墳出土の三角縁神獣鏡と平原遺跡出土の日本最大の内行花文鏡の復元品を実際に持って来て、その重さを体感しました。

いよいよ金属鏡作りです。班ごとに溶けた金属を型に流し込み、できた鏡の素材を耐水ペーパーで磨き、ピカピカの金属鏡ができあがりました。

今回の学習を通して、古代の安来の様子に想いを馳せながら、金属鏡作りをしてくれたようです。

2 活動の様子

古代の安来について学ぶ



安来の古墳や遺跡から出土したものを見ながら、学習しました。

金属鏡作り体験



根気強く、磨いています。

だんだん、光ってきたぞ！

完成！みんなで記念撮影。

1時間近く根気強く磨いて、ピカピカの金属鏡が完成しました。古代の人は、どんな道具を使って、どんな方法で磨いていたのかなあと考えながら体験活動をすることができました。